



BOOMERANG

ボーイスカウト川崎地区賛助会は1984年に川崎地区協議会の財政支援を目的として、川崎地区の有志により設立されました。この会報「ブーメラン」は当会の歴史と活動内容を広く皆様へご紹介する目的で発行しているものです。また、賛助会の運営趣旨にご賛同ただけの方へのご入会促進メッセージでもあります。この機会に是非ご入会を検討いただければ幸いです。

【故・近江廣之副会長 追悼特集】



2022年7月、長期療養中でありました近江廣之氏が逝去されました。少年時代からスカウト人生を送ってこられ、多くの功績を残された人でありました。故・近江廣之氏を偲び、これまで親交を築かれた方々から思い出を寄稿していただきました。

■故・近江廣之氏を偲んで

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会
会長 木村 耕三

近江廣之氏は昭和58年（1983年）に42歳の若さで地区委員長に就任されました。昭和62年までの5年間精力的に地区運営に取り組み、川崎地区の中興の祖とも言える人物と思います。

昭和60年（1985年）に古尾谷協議会会長とともに賛助会を設立されました。

その当時、地区登録費は100円でしたが、500円に値上げされました。

しかし近江地区委員長は将来500円の登録費では早晚地区運営に支障を来す懸念を強く抱かれていました。保護者に金銭的な負担をあまり掛けないようにとの強い思いから、収入を図るべく地区とは独立した組織を立ち

上げたのが川崎地区賛助会です。

賛助会の設立後はゴルフコンペ、ダンスパーティー、物品販売などにより収入を図り、川崎地区に毎年財政支援を行うようになり、今日まで30数年間にわたり地区登録費は500円で維持されています。

日本一安い地区登録費が脈々と今日まで引き継がれていることは驚嘆に値します。近江廣之氏は先を見据えた戦略家であり、川崎地区が発展し続けているのは近江廣之氏の先見の



明の賜物です。

また近江廣之氏はボーイスカウト活動に対する熱情は他を凌駕する人でした。ボルチモア交流の端緒は、1983年ごろ「川崎ボルチモア姉妹都市員会」の会場（ホテル日航）に飛び込み直談判して実現した経緯があります。1985年に第1回目のボルチモア派遣に端を発し、今日まで37年間継続して交流が継続しているのも特筆に値します。

またエピソードとして「仕事はボーイスカウト活動が無い時に行うもの」の名言があり正にボーイスカウト活動の申し子といえる強烈且つ稀有な人でした。

近江さん！川崎地区の発展にそして賛助会の設立などあなたの功績は多大なものがあります。どうぞこれからも天国から川崎地区と賛助会をお見守り下さい。

■近江廣之氏を偲んで

ボーイスカウト川崎第56団
団委員長 濱田雅弘

今年(2022年)夏、近江廣之氏を斎場でお見送りしたとき、何故か近江隊長らしい時期だなと感じた。

近江隊長、私にとっては近江氏が何時までも隊長という存在であるのは、少年隊（BS隊）、シニア隊（ベンチャー隊）の隊長として長くお付き合いをさせていただきただけでなく、夏の野営ではキャンプ技能、野外料理、パイオニアリング、刃物の扱い方などを



通り一遍の教え方とは少し異なり、情熱的といえるほどの熱い思いを感じながらスカウト時代を過ごしたからなのだろう。

近江隊長はあの外観

とは別の顔を持つことを知っている仲間は多くないと思うが、多くのスカウトソングも教えてくれた。と言っても、楽譜で教えるのではなく、決して美声と言えないあの声で歌う様は密かに自分だけが知る一面であると自負もしている。

シニアスカウト時代の多感な頃には、第13回世界ジャンボリーが朝霧高原で開催されて、参加することが出来たことは大きな出来事であった。その後自分自身の気持ちはそろそろスカウト活動にも見切りを付けたいと思うに至ったのだが、その矢先に、機先を制するがごとく、「今度新たに神奈川連盟でゴールデンアックス トレーニング コースという訓練が始まるので、GATC第1期に君を隊員として迎えることになった！」・・・この時に隊長とスカウトの関係はこれからも続くのだろうと覚悟が出来たのだろう。

ローバー隊に上進すると、これまた近江氏はRS隊の指導者となり、当時の感情としては、「もれなく近江さんがくっついてくるのだ・・・」と考えたことも思い出される。



近江隊長は手品師のごとく、矢継ぎ早に「第14回世界ジャンボリーがノルウェー

で開催される。参加しないか？」と提案してくる。首尾よく何とか派遣隊員となったことを私の両親以上に喜んでくれた。

振り返れば、私の人生の節目となる就職、結婚、子供の誕生と多くの場面で近江隊長が登場する。

ここまできると、師弟関係と言っても良いのだろう。ことあるごとに、近江隊長を訪ねて、仕事のこと、隊・団のこと、地区活動から県連の活動に至るまで様々な事柄の相談窓口となってもらおう。

晩年の近江隊長は、髭をたくわえ、昔恐れおののいたあの迫力もいつの間にか穏やかになった感がある。今となっては、近江隊長夫人と共に思い出を語らう時が和み、そして何とも懐かしく、これからも大事にしたいと強く想う。近江隊長、どうぞ安らかに。

■『厳しさと優しさと』

日本ボーイスカウト川崎地区協議会
協議会長 境 紳隆

「とても怖い隊長」として有名だった近江廣之さんとお会いしたのは、昭和46年3月に東京都五日市町で開催された「白梅隊」が最初だったと思います。小学校を卒業して中学校入学を間近に控えた時期でしたので、厳しく指導された記憶はありません。

昭和55年に指導者講習会（今のBS講習会）を受講した際に、初めて近江さんの講義を受講したと記憶しています。明確に近江さんの警咳に接したのは、昭和57年10月に山中野営場で開催されたウッドバッジ（WB）研修所シニアースカウト課程神奈川第10期に参加した時でした。入所直後に「近江隊長」が直接「気を付け・休め・敬礼・スカウトサイン・右向け右・左向け左・回れ右等の基本動作」を、延々と約1時間に渡って実に厳しく指導されました。

平成12年11月にWB研修所ローバースカウト課程神奈川第3期に入所した時は、近江さんが主任を務めておられました。実修所を修了した参加者が何名もおられる中、「境君にクルー

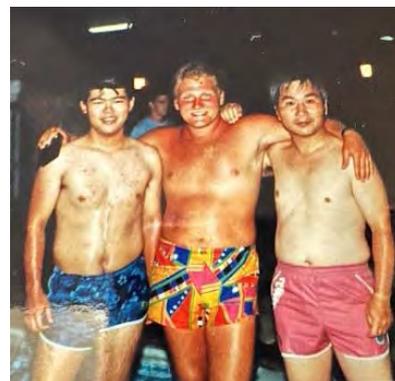


チーフをやって貰う。前回は濱田にやらせた役割だ。」と言われて、その証となる飾り刀を渡されました。（写真）「大変な役目を仰せつかった」と思いましたが、「こいつを鍛えてやろう」という期待と優しさを感じ身震いしたことを覚えています。

■カリスマ

日本ボーイスカウト川崎地区協議会
地区委員長 北條 賢一

出会いはスカウトとして昭和54年に参加した白梅隊の隊長。自分の団の隊長（賛助会理事の長谷川理事）も含め各団の隊長が副長を務め、個性的なスタッフをまとめている近江隊長はとにかく凄みがあった。パイオニアリングも夜間ゲームもすごくダイナミックでとにかく刺激的なキャンプでした。その中のプログラムに spare time activity という余暇に行う活動があり、キャンプに役立つ道具を作ることが課題でした。私は竹の節にキリで孔を開けて作った



調味料入れを提出すると、それをすごく誉めてくれたのが近江隊長。その後ローバーのときに参加したボルティモア派遣隊も近江隊長でした

し、ウッドバッジ研修所の所員に誘っていただくなど節目で大変お世話になりました。

「1にボーイスカウト、2に家庭、3に仕事」「雨天時用プログラムなんて考えるから雨になる」などという暴言にも説得力があるまさにカリスマ性を感じた憧れの指導者でした。そして近江さんといえばコーヒー。お宅にお邪魔すれば挽きたてコーヒー、外では自販機で缶コーヒーをタバコを燻らせながらニコニコと嗜む

憧れの大人でした。ご冥福をお祈りいたします。

■近江さんとの出会い

賛助会 理事
鈴木 秀明

私と近江さんの出会いは42年前の地区協議会創立30周年記念の野営大会の会場でした。当時、私が所属する43団は、地区へスタッフを殆ど派遣していなかった事もあって近江さんから熱心なお誘いを受けたのが始まりと記憶しています。以降、地区委員の一人としてお手伝いすることになり私が原隊のシニア隊長であった事から当時、地区委員長の近江さんより「地区シニア特別委員会発足」の委員長を仰せつかりました。その後、近江さん共々、協議会から離れスカウトクラブや賛助会の一員として活動を共にしてきました。近江さんはお酒よりコーヒーが大好きで集まりの後は夜遅くまでお付き合いして頂きました。



この度、近江さんの突然な訃報に驚き、献身的に奉仕されていた頃のお姿を思い出しております。

■近江相談役のことば

賛助会 理事
内田 治彦

近江相談役はボーイスカウト活動に於いて、楽しい活動である事を教えて頂きました。1980年代にボーイスカウト活動に登録を致しました。団委員より指導者に迎えられ川崎地区の組織を知る事となりました。白梅隊での指導者として知ることになります。ボーイスカウト川崎地区賛助会に入会して近江理事の川崎地区で

のご活躍を知る事となりました。

賛助会では地区ラリーに於いて、また、ビーバーまつりに於いても賛助会売店設けていました。こどもの国にて地区ラリーでした、広大な敷地の中での売店でしたがテントサイトにボーイスカウト関連グッズ販売が飛ぶように売れました。近江理事と会話をさせて頂きました。「ボーイスカウト活動は指導者自身が楽しくなくてはいけないよ」。原隊でのプログラム



に良い方法が見出せない時でした。スカウトの為になる事優先でしたがプログラム活動が楽に

予定をつくる事が出来ました。川崎市内の小学校にビーバーまつりの売店を設けました。数年間を共にさせて頂きました。ボーイスカウト関連グッズも低学年用は何になるのか楽しみにお手伝いをさせて頂きました。「ネッチリング」や「木彫りのナイフ」でした。近江理事の手作りの物でした。「自分が出来るものを見せる、ワクワクする物作りだよ」



「木彫りのナイフ」を磨いている姿に指導者としての原点を見せて頂きました。

指導者として、隊運営者として今後の活動に励みにさせて頂きます。ありがとうございます。

■近江さんのこと

賛助会 理事
長谷川博之

近江さんは私にとって沢山の教をいただいた恩師ではあるのですが、その内容があまりにも大きく多岐にわたるためすぐに文章が浮かびませんでした。そんな頭の中を少し整理してお話したいと思います。

約50年前、ボーイスカウト活動では厳しくも人格を持った沢山の指導者にお世話になりました。その中で私が近江さんと出会ったのは1976年頃だと思います。その当時我々は20歳の指導者であり、我々にとっては頼りがいのあるそして正に怖い指導者のNo.1でありました。そんな時期に大きく影響されたことは「子供に教える前に身をもって体験せよ」ということでした。そういう点で近江さんは身体を張った指導を身をもって教えてくれた私の恩師でもあります。

その後、私が野営行事委員会や国際委員会、賛助会などで困った時は必ず適切なアドバイスをいただきあらゆる事業をサポートしてくださいました。

その中でいつも「できないということは考えなくてよい。出来るにはどうしたらよいか考えなさい。」ということをおっしゃっていました。

私は技術者であります。この考え方は論理的思考することに通じ、スカウティングのみならず技術者としての姿勢をも教えられ今日に至っています。

また、ご存じのとおり、たくさんの事業の創設者でもありました。そのなかで多くのスカウトが国際社会に飛び出せるようにと米国



2019.11.22 Baltimore Rutherford夫妻の歓迎会にて

Baltimore市との姉妹都市スカウト交流があります。現在も私が関係していることですが、開始以来37年も継続していることは特筆すべきことです。

ここに故人の遺志がこれからも生き続けることを願い、心からご冥福をお祈り申し上げます。

■川崎地区活動紹介

スカウト支援委員会 井上 景

●スカウトフェスタ 2022（地区ラリー）

10月2日（日）、こどもの国（横浜市）で「川崎地区スカウトフェスタ 2022（地区ラリー）」が実施されました。

地区ラリーは、年に一度、スカウト・リーダーが一堂に集まるボーイスカウト川崎地区最大のイベント。今回は約800名のスカウト関係者が集まりました。「スカウトフェスタ」という名前はもともと川崎地区の創立70周年記念行事として設定されたもの。創立70周年行事全体がコロナで1年延期の上、中止となったことから、2年遅れの開催となりました。ちなみに地区ラリー自体もコロナで3年ぶりの開催となりました。



さて、当日。天気は雲一つない天気。10月とは思えない暑さとなりました。朝10時にスカウトたちが集合。記念式典のあと、スカウトたちは園内に点在するゲームへ向けてスタートしました。園内のゲームは各団がSDGsをテーマに展開。スカウトたちは会場内を1日かけて回り、各団が趣向を凝らしたゲームに参加しま

した。コロナの影響でしばらく実施できなかったイベント。3年ぶりの賑わいを取り戻しました。

●第50期白梅隊

9月11日～10月16日まで第50期白梅隊が実施されました。白梅隊は、ボーイ隊の合同訓練会。中学2年生を中心に各団からスカウトが集まり、活動します。例年、移動野営とパイオニアリングをメインの活動として展開しています。

9月11～13日、黒川野外活動センターで結隊式と第1回隊集会を実施。原田隊長(川崎46団)のもと、17名のスカウトが活動をスタートしました。

10月9～10日には、移動野営を実施。雨が降る中でしたが2日間のハイキングを参加スカウト全員が歩き切りました。コースは、元箱根→湖尻→乙女峠→御殿場。全体で約35km。テントや食料を持ってのハイキングは大変だったことでしょう。

10月15～16日には、キャンプを行い、1日目に料理コンテスト、2日目にパイオニアリングとして「モンキーブリッジ」を作成しました。



そして、この日の解隊式をもって、すべての活動を終了しました。

短い期間でしたが、原田隊長の熱心な指導で、充実したプログラムが展開できたのではないのでしょうか。参加スカウトたちにはこの経験をぜひ今後の活動に活かしてもらいたいものです。

●ボルチモア川崎バーチャル富士登山

国際委員長 西角 恵輔

ボルチモア川崎スカウト交流では、ボルチモアのスカウトが川崎に来る際に、必ず合同で富士登山を行います。ボルチモア隊は自隊を3776隊(富士山の高さ)としてアメリカ連盟に登録しているように、富士山に登ることが派遣の大きな目的となっています。コロナによって物理的な交流が途絶えて3年経ちます。「去る者日々に疎し」と言いますが、交流の熱を持続するのは簡単なことではありません。



国際委員会では、川崎のボーイスカウトおよびガールスカウトのスカウトとリーダー、保護者を

募り、一泊二日の富士登山を企画しました。登山隊は、7月25日に8名のスカウト、10名の大人、1名の医師の支援を受けて、5合目より出発しました。4名の大人に5合目で待機、またリモートにて数名の医師に待機頂きました。無事に予定通り山小屋に到着、仮眠の後、山頂でのご来光を拝むため夜半に出発、保護者1名を除いて全員が登頂しました。山頂ではボルチモア隊とZoomにて交信し、富士山の自然とスカウトと大人が協力して困難な



タスクを成し遂げる素晴らしさを共有することができました。その後下山は大雨になりましたが、26日午後には無事川崎に帰って参りました。本事業に当たり、聖マリアンナ大学に高山病薬の処方や登山の帯同、リモートでの待機など多大なるご協力を頂きましたことを心よ

り感謝申し上げます。次年度こそはボルチモア隊と一緒に再び登山できることを願ってやみません。

■事業報告

●賛助会主催ゴルフコンペ報告

賛助会理事 田中勇人

2022年11月2日(水)に、千葉県の大多喜城ゴルフ倶楽部にて第1回青少年育成チャリティゴルフコンペを開催いたしました。

一番心配していた天候は、前日夜に降った雨もやみ、当日は最高の快晴となりました。

お陰様で参加者の方々、主催側も、満面の笑みで開催の朝を迎えることができました。

参加者105名を27組に分け、お仲間同士や初めてお会いした方々と組ませていただきました。

初めての
方々もハーフ
のプレイが終
わりお昼に戻
っていらした
時には、すっ



かり和気あいあいの雰囲気です改めてゴルフの魅力を感じました。

青空の下、27組105名のプレイヤーが、腕を競い合い、楽しい時間を過ごすと同時にゴルフを満喫頂いたと思っております。

ゴルフコンペを通して、多くの方にご協力いただき、快くご寄付を頂くことができ、賛助会として、これからの活動のあり方、進め方に大いに参考にさせていただきたいと思っております。

参加者の皆様のおかげで、チャリティ金額50万円近くが集まりボーイスカウト活動を中心とした青少年育成活動に使わせて頂く所存です。詳細は後日改めてご報告いたします。

今回の成功のカギは、チャリティゴルフコンペに参加して下さった皆さま、色々にご寄付を下さった方々、快くコンペ会場を提供して下さ

った大多喜城ゴルフ倶楽部様、スタッフの皆様のご協力ご支援があったからこそと確信しております。

多くの方々のお力添えご協力いただきまして誠にありがとうございました。

皆さまに大きな感謝と共に、これからも賛助会の活動を進めていきたいと思っております。

今後とも皆さまどうぞ宜しくお願い申し上げます。



結びに今回賛助会の活動の一環としてゴルフコンペ開催致しました。

参加者の方々への入会促進を図り、次年度以降もゴルフコンペの開催の予定でございます。今後とも皆様のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

■理事会報告

●第210回 2022年7月16日

於：川崎市総合自治会館

- (1) 総会総括
- (2) 賛助金関連
- (3) 地区関連報告
- (4) ブーメランの発刊について
- (5) 賛助会員増強
- (6) その他、議員団ヒアリング
- (7) チャリティゴルフについて

●第211回 2022年9月11日

於：川崎市総合自治会館

- (1) 賛助金関連
- (2) 2022年度予算状況
- (3) 地区の近況トピック
- (4) ブーメランの発刊について
- (5) 会員増強
- (6) その他

(7) チャリティーゴルフ実行委員会

●第212回 2022年11月13日

於：川崎市総合自治会館

- (1) 賛助金関連
- (2) 2022年度予算状況
- (3) 地区の近況トピック
- (4) ブーメランの発刊について
- (5) 会員増強（アクションプラン）
- (6) チャリティーゴルフについて
- (7) その他

■総会開催

2022年6月26日（日）18時～

於：川崎市総合自治会館

■賛助会員の分布（2022年12月現在）

- ・準会員 7名
- 個人会員 100名（議員含む）
- 団体会員 26団体（法人含む）

■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方の参加を歓迎いたします。

◆賛助会員の種類と会費

- ・準育成会員（年会費） 一口 2,000円
- ・個人会員（年会費） 一口 5,000円
- ・団体会員（年会費） 一口 10,000円

下記へご連絡ください。

■お問い合わせ：賛助会事務局：鈴木

E-mail : sanjokai@scout-kawasaki.org

ホームページ：

https://www.scout-kawasaki.org/?page_id=226

●編集後記

かつてこの機関誌を発刊するにあたり、近江家でコーヒーを飲みながら一緒に名前を考えたことが懐かしい。表紙のブーメラン写真は近江氏の所有品でした。近江氏が賛助会に馳せた想いはブーメランのように私たちへ戻って来ています。(H)

●発行者

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会

【法人会員のご紹介】

順不同・敬称略

富士高圧ガス工業株式会社 神奈川県川崎市鋼管通 代表 谷屋 利隆	株式会社 テクケ 神奈川県川崎市中原区新城 代表 出竹 悳文	株式会社 沼崎商会 東京都世田谷区尾山台 代表 沼崎 匡一
日本エード株式会社 東京都中央区日本橋本石町 代表 小清水 克臣	株式会社 上作商店 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘 代表 手塚 功	ドリームキッズさぎぬまナーサリー 神奈川県川崎市宮前区鷺沼 代表 富山 純江
株式会社 保育所ひまわり 神奈川県川崎市幸区小倉 代表 耳田 英恵	特定非営利法人 子育てを応援する会 神奈川県川崎市高津区末長 代表 飯野 道子	呉エンジニアリング有限公司 神奈川県川崎市中原区中丸子 代表 野沢 義幸
株式会社 アヴォン 保育所 ピッコリ・アンジェリ 川崎市高津区末長 代表 青木 しづ子	コパロン株式会社 宮城県仙台市宮城野区扇町 代表 長澤 清	株式会社 アップ総合企画 神奈川県川崎市川崎区元木 代表 田中 勇人